

安倍政権「共謀罪」法案を国会提出 成立阻止へ 決意新たに行動を！

安倍暴走政権は3月21日、「共謀罪」法案を閣議決定し、衆議院へ提出しました。これまでの国会審議、学者・弁護士、そして市民・野党の徹底批判によって、政権意図が完全に崩壊しているにもかかわらずです。

この暴挙を阻止するために、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の真相をさらに広く訴えていきましょう。国民を欺いて悪政を強行する安倍政権を打倒するために、さらなる行動を継続していきましょう。



3.19 国会議員会館前集会に 4800 人

「戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会」主催の「自衛隊は南スーダンから即時撤退!共謀罪反対!3.19国会議員会館前行動」は、3月19日、4800

人参加で実行。安倍政権に対し「戦争法は今すぐ廃止」「自衛隊は直ちに撤退」「共謀罪の新設反対」「安倍内閣退陣」のコールを突きつけました。(福島 清)



3月16日は終日、千代田春闘共闘委員会主催「3.16総行動」でした。総行動のメインスローガンは「大幅賃上げ実現、安倍内閣打倒、共謀罪阻止、戦争法（安保法制）廃止、特定秘密保護法廃止、消費税増税反対、原発再稼働反対・すべての原発即時廃止、東日本大震災復興支援、格差と貧困をなくし内需拡大で景気回復、くらしと雇用、いのちと平和を守り、17春闘勝利を目指す」――。

この日は、朝、神田、九段下、市ヶ谷、霞ヶ関、虎ノ門の各駅で宣伝行動、昼は丸の内から経団連までのデモ、午後はお茶の水駅頭、神田神保町交差点での宣

伝行動、夜は東京春闘共闘と共同で、虎ノ門から国会までのデモを実行しました。

宣伝行動では、千代田区労協と真相を広める会連名の「宮澤・レーン『スパイ冤罪事件』は訴える「共謀罪、断固反対!」のリーフレット3800枚を配布して市民にアピールしました。

日本の首都東京、そのまた中心の千代田区内の労働組合とM I Cなどが結集しての総行動は、意気盛んです。その中核である千代田区労協には、千代田区職労、全農林、全労働など公務員労組と新聞、出版、通信、IT、全国一般加盟労組など60組合・分会、約5400人が結集しています。総行動メインスローガンにあるように、戦争に反対して、平和・いのち・くらしを守るための諸課題を高くかかげて活動しています。

共謀罪断固反対!リーフ 4600枚宣伝

千代田区労協と「真相を広める会」連名で発行した「共謀罪断固反対!」リーフレットは、大和市秘密保護法反対特別委員会、東京地評評議員会、毎日新聞労組、マリオン前宣伝行動、千代田総行動などで、これまでに4600枚宣伝しています。共謀罪粉碎まで引き続き宣伝を継続していく方針です。(水久保文明)

植村裁判 東京訴訟第8回口頭弁論 4月12日(水)15:00~15:30 東京地裁 103号法廷
<報告集会> 植村ハッシングとメディアへの攻撃 参議院議員会館講堂 16:00~17:30 500円

「2.22北大OB・OGのつどい」今後の方針を確認

「宮澤・レーン事件」世代を超えて継承へ

戦前、北海道帝国大学の英語教師だったレーン夫妻とともにスパイ冤罪に陥られた宮澤弘幸さんの命日である2月22日、首都圏在住の北大OB・OG有志は、新宿・常圓寺で墓参後、「強権国家NO！ 宮澤先輩の命日に集う北大OB・OGの会」を開催した。DVD鑑賞、問題提起、近況報告などの後、宮澤・レーン事件については今後も考え、発信を継続していくとともに、若い世代に働きかけを継続すること、さらに毎年2月22日の命日には常圓寺で墓参とつどいを開くこと等を確認し合った＝写真右。

組織的な墓参と会合は、2013年以来「北大生・宮澤弘幸『スパイ冤罪事件』の真相を広める会」（以下「広める会」）が呼びかけて始まった。今年も「広める会」が主催し、午後1時過ぎから三々五々墓参した。午後2時からは、同寺地下ホールで北大OB・OG有志主催のつどいを開催した。札幌から2016年1月に結成された「宮澤・レーン事件を考える会（北海道）」（以下「考える会」）代表の山本玉樹さん、「広める会」の山野井孝有さんから36人が参加した。翌日23日付毎日新聞と北海道新聞が墓参とつどいについて報道した。

つどいを呼びかけた世話人としては、①宮澤弘幸とレーン夫妻の追悼と「宮澤・レーン事件」の現代につながる課題について、北大関係者が当事者意識を持って事件のより深い究明を行い、大学内外で記憶の継続を求め、実行していくこと、②学内で普通の営みを行っていた教師と学生に対する拘束であるにもかかわらず、抗議及び冤罪被害者を擁護出来なかった大学自治のあり様の反省を求めていくこと、③再び冤罪が起こさせぬよう活動を継続する態勢をつくりたい——との問題意識からであった。

最初に「考える会」が昨年12月11日に札幌で企画・上演した「構成劇：エルムに寄せて」のDVDを上映した。この構成劇は「宮澤・レーン事件」の経緯と権力の横暴を告発するもので、「考える会」と「ビー・アンビシャス9条の会・北海道」が中心となり、脚本・演出・出演を両団体のメンバーや北大の学生たちが、専門家の支援を得て、総勢60人超で行われたもの。会場の北大工学部ホールは360人の参加者であふれた。つどい参加者は熱心に見入っていた。

第一部では、①報告②研究発表③活動の継続と拡大のための提案が行われた。「報告」は、「広める会」事務局の福島清さんが、「広める会」のこれまでの活動報告の後、組織的な活動は停止しているが、会員が自覚的・自主的に引き続き宮澤・レーン・スパイ冤罪事件



の真相を広め、関連する活動を継続するために事務局をおき「事務局たより」を発行している。現在は、再び「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」を引き起こす共謀罪阻止のために活動していると報告した。

「研究発表」は2件。昭和女子大名誉教授の伊藤セツさんは「山川菊栄研究からみる戦前の運動・言論取締」というテーマで、強権権力による自由の抑圧事例と、時代とともに取締りが強化される状況を、詳細な資料に基づき明らかにした。法政大学名誉教授の伊藤陽一さんは、旧帝大で唯一防衛庁予算研究に応募した北大への警告を念頭に「軍事研究の現状（防衛省・米軍）と学術会議の検討」の説明を行った。

世話人から「活動の継続と拡大のための提案」として、①世代を超えて「宮澤・レーン事件」を継承するため若い世代への働きかけを行う。②毎年宮澤の命日の2月22日に常圓寺にて墓参・会合を持つ。事件発生日の12月8日には、「会報」を出すほか必要に応じ会合を行う。③事件に関する大学当局への働きかけ、大学関係者との関係作り、在校生への参加働きかけ等の活動は札幌が主となるので、「考える会」の活動を支援していく。④「広める会」は「事務局たより」と同ホームページで北大OB・OGへの情報提供や投稿掲載等に協力するとしているので、これを活用していく。⑤在京OB・OG等との連絡は、当面は今回の世話人2人（村瀬、泉）が担当する。連絡先を世話人まで連絡されたい（取扱は厳重管理）——ことを提案した。

続いて参加者全員が今後の活動についての意見と近況を報告。最後に活動活性化を再確認して閉会した。二次会では旧交を温め合った。二次会残金2万余円は、今後の活動資金とすることにした。

世話人 村瀬喜之 090-4947-5393
同 泉 定明 090-4534-1375

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」 朝日新聞がコラムで紹介

3月9日付朝日新聞は、「ザ・コラム」で駒野剛・編集委員の「自由・人権と国家 不都合な真実に牙むく権力」と題した記事を掲載しました。「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の発端から、宮澤弘幸が事実上獄死された経過を簡潔に紹介した後、国家権力がいままた画策している共謀罪の危険性とマスコミの責任について、次のように指摘しています。



自由や人権を否定した暗黒事件だが、宮沢の死と、戦後、北大に復帰したレーン夫妻が口をつぐんだことに加え、事件が秘密のベールに包まれて容疑をかけられた人が分断されてしまい長く知られなかった。

摘発当時も詳しく報じられなかった。朝日新聞は宮沢らが逮捕された翌日、他の事件とまとめて「外人スパイ一斉検挙」とだけ掲載した。新聞が真実追究の力をなくし、権力の言いなりだった証拠だ。



……日本国憲法で、私たちには基本的人権、思想信仰や言論出版の自由が与えられた。しかし権力の行使に不都合な真実の公開に、今も国家は牙をむく。

72年5月の沖縄返還の際、日米協定では米側が「自発的に支払う」となっていた返還される土地の原状回復費400万ドルを日本が「確保する」とする密約を結んだのに、政府は密約の存在を否定し続けた。

「米国の情報公開がなかったら、半永久的に表沙汰にならなかった。権力はウソをつくんだぞ、ということ」を密約事件は今も警告しています」と西山さんは話す。

14年12月に防衛機密などの漏洩を防ぐ特定秘密保護法が施行され、いま、犯罪を計画した段階で処罰できる共謀罪の趣旨を盛り込んだ法律が導入されようとしている。自由や人権への牙を強める道具の賛否で新聞界は割れ、逆に肩入れする人さえいる。

宮沢の妹、秋間美江子さん(90)は訴える。「私たちのような家族をまた作ってはいけない。あなた方これからの時代の人たち、頑張ってください」。この言葉が今ほど新聞人に突き刺さる時代はない。

<コラム> 冤罪忘れるな！⑩

冤狙・開かれた北星学園

札幌市中央区南4条西17丁目

創設は1887年に遡る。アメリカ・長老教会婦人伝道局の派遣で来日したサラ・クララ・スミスが開学、「スミスさんの女学校」で親しまれた。敬虔ながら家族的な校風で知られ、戦前は毎週金曜日の午後を、いまでいう園長主催のホームパーティーの日とし、札幌圏に働く外国人教職者をはじめ、学内外の人たちが自由に出入りして、親睦と文化交流の場となっていた。



ここに卑劣な狙いをつけたのが特高警察で、スパイの溜まり場と決めつけた。宮澤・レーン夫妻への判決でもアメリカ大使館への繋ぎは全て同学園で行われたことにされているが、証拠は全く示されていない。ここで雑談交じりに話せばアメリカ当局に「通報されると予想して」漏洩したなどと、非条理極まる予断を振り回し、漏洩罪を適用している。この一点だけでも裁判にも値しない冤罪だったこと明らかといえる。



「スパイ冤罪事件」の真相に迫る決定版(本会編)

『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』花伝社刊

第1部=冤罪の真相、第2部=冤罪事実の条条検証資料編=判決全文、軍機保護法全文、年表
特別添付=重要事項索引(別冊)

申し込みはFAX・メールで本会事務局まで(1面上部題字横に掲載)。送料税込み2300円。後払い。

【事務局から】昨年秋から国会議員会館前行動に参加する日が増えた。地下鉄永田町駅を降りるとリュックに「アベ政治を許さない」の小さなタグを付けた高齢者や、手製のスローガンを持った夫婦たちと出会う。「安倍暴走政治にじっとしていられない」という静かな怒りを感じる。1時間程度の行動だが、主催者は「歩道の通行人には道を譲り整然と行動しよう」と呼びかける。警備の警官も強面ではない。一人ひとりが行動を積み重ねていくことだ。陽春。全部はムリだが、悪政打倒へ、幟を立てて集会参加を続ける。(福島 清)